

「建築環境工学」から「建築環境学」へ -建築環境工学の新しい研究手法を考えられないか-

1. 「建築環境工学」から「建築環境学」へ

現在の建築環境工学分野への疑問

- ・モデルは正しいか？
- ・「代替案の提示/何%かの削減」に焦点を充てた話では、「人」が見えないのではないか？
- ・「人」は単なる被験者か？統計処理で良いのか？
- ・コントロールボリューム（オイラー型）のみで良いのか？
- ・既存のモデルの改良や方法の組み合わせで良いのか？
-

2. 関連する文献

以下の文献を配付。以後、頁番号は、通しではなくなるので注意（文献などの頁数は、配付資料の頁数には加算せず）。

- [1] 仲美帆子，辻原万規彦：局地風が集落に及ぼす影響と集落に住む人々の防風の工夫に関する研究，日本建築学会九州支部研究報告，第50号・2〔環境系〕，pp.197～200，2011.3.
- [2] 原田紫帆，辻原万規彦：阿蘇外輪山の内側に位置する神社の配置と人々の暮らしの関係，日本建築学会九州支部研究報告，第51号・3〔計画系〕，pp.421～424，2012.3.
- [3] 中山満美，辻原万規彦，細井昭憲，安浪夕佳：地方都市における一般公衆浴場の変容に関する研究，日本建築学会技術報告集，第26号，pp.679～684，2007.12.